



西小だより

学校 Web サイト URL <http://nishiurawa-e.saitama-city.ed.jp/>

～ よく学び 笑顔いっぱい 一人ひとりが輝く教育の推進 ～

《 学 校 教 育 目 標 》

ー夢がわき 心もはずむ 西小の子ー

- ・素直で心豊かな子
- ・進んでくり返し学習する子
- ・ねばり強くたくましい子

節分 ～心の中の鬼退治を～

校 長 石 田 成 夫

冬らしい北風の吹く日も増えてまいりましたが、それでも凍えるような真冬の寒さを感じる日は、年々減ってきているように感じます。私が西浦和小に着任した令和3年には、朝、体育館の陰にできた霜柱が午前中に徐々に解け、多い時には校庭の三分の一程度がぬかるみとなり、体育の授業や子どもたちの外遊びに影響を及ぼしていました。しかし、去年の冬には霜柱が立つ日が2、3回しかなく、今年に至ってはまだ校庭に霜柱が立っていません。先日の長期気象予報では、この冬は春の到来が早く、桜の開花も早まるだろうと伝えられていました。今年度は、満開の桜のもとで6年生が巣立ちをを迎えるかもしれません。

2月の話題と言えば節分を思い浮かべる人も多いかと思います。節分というと2月3日のことが多いのですが、今年、2025年は暦の関係で2月2日が節分になっています。節分とは、もともと「季節を分ける」という意味で、昔は春・夏・秋・冬の季節の変わり目のことをすべて「節分」と呼んでいました。この4つの節分の中でも、立春の前の節分が現代に定着したのは、旧暦の1月（現在の2月）の節分が一年の始まりとして大切であると考えられてきたことが理由のようです。そして、古来より季節の変わり目には、邪気が家の中や人の心の中に入ってくると信じられており、それらの邪気を鬼に見立てて追い払い、幸運を呼び込むために豆まきが行われるようになったそうです。



節分の始まりは平安時代や室町時代など諸説あり、そのやり方も地方によって様々なやり方が存在しています。節分というと福豆（炒った大豆）をまくところが多いかと思いますが、北海道や東北地方、新潟県や、九州地方の一部では、豆の代わりに落花生（ピーナッツ）を投げるところが多いそうです。雪の多い地域では豆より落花生の方が見つけやすいとか、カロリーが高いために寒い地方で好まれるというのが理由のようですが、九州地方でも落花生を投げる地域が多いので、一概に雪や寒さだけが理由ではないようです。私の家では、掃除しやすいという理由で落花生を投げており、落花生の産地

として有名な千葉県でも、近年は落花生を投げる家が増えていると聞きます。昔からの風習や文化は地方によって様々な違いがあり、その違いが生じた理由や根拠を想像し、比べてみるのも面白いものです。

また、節分の鬼といえば赤鬼を思い浮かべる人が多いと思いますが、仏教や陰陽五行の考え方では、節分の鬼の色は「赤鬼」「青鬼」「黄鬼」「緑鬼」「黒鬼」の5種類があるそうです。これは、人間の5つの悪い心を「5つの鬼」に例えて色分けしてあるそうで、赤鬼は欲望や渴望、青鬼は悪意や憎しみに怒り、黄鬼（または白鬼）は後悔や我執、緑鬼は怠惰や過食に不真面目、黒鬼は疑心や愚痴を示しています。先日の講話朝会で、この五色の鬼の話をしたのですが、子どもたちには、赤鬼を「欲しがり鬼」、青鬼を「怒りんぼ鬼」、黄鬼を「わがまま鬼」、緑鬼を「なまけ鬼」、黒鬼を「人のせい鬼」という名前に代えて紹介しました。



心の中の鬼は、豆や落花生で外に追い払うことはできません。自分の心の中に鬼はいないとは思っている人も、もしかしたら何かのきっかけで、心の中に鬼が生まれてくるかもしれません。心の中から鬼を追い出すことができるのは、正しくやろう、やさしくしよう、正直に生きようとする前向きな強い気持ちだけです。心の中に鬼が生まれないように。また、鬼が生まれてもすぐに退治できるように、日頃から自分の中の鬼退治を心がけたいものです。